11. 都市から農村へ人の流れを生み出す取り組みについて
甲府昭和高校

私は、都市から農村への新たな人の流れを生み出すため、山梨県の過疎地域を「研究・実証実験の聖地」として位置付け、積極的に活用することを提言します。近年、企業や大学では、地域課題の解決や新技術の検証を行うための実証実験の場が求められています。そこで、農村部の耕作放棄地や遊休施設を実証実験のフィールドとして提供するとともに、空き家となった古民家を研究者や学生の滞在拠点として整備し、農村生活を体験しながら研究活動に取り組める環境を整えます。こうした仕組みにより、ベンチャー企業や大学の誘致を進めます。そして、研究成果を地域住民と共有し、農業の効率化や防災対策、地域交通の改善などに生かすことで、地域課題の解決と活性化につなげます。他県の事例を見ると、例えば徳島県神山町では、空き家や古民家を活用したサテライトオフィスの整備により、多くのIT企業や若者を呼び込み、「地方創生の聖地」と呼ばれるまでになりました。また、福島県では「福島イノベーション・コースト構想」のもと、ロボットやドローンの実証実験拠点を整備し、企業や大学の集積によって新たな産業の創出と交流人口の拡大を実現しています。

山梨県は、豊かな自然環境と首都圏からの優れたアクセスという強みを有しています。神山町がIT人材を、福島県が研究者や技術者を呼び込んだように、山梨県も「研究」と「農村体験」を組み合わせた独自のモデルを構築することで、都市から農村への新たな人の流れを創出し、持続可能な地域づくりを実現できると考えます。





12. 持続可能な観光地域づくりに向けた取り組みについて
山梨高校

近年、山梨県では外国人観光客が増えたことで、オーバーツーリズムによる マナーや環境の問題が起きています。その原因の一つは、観光客が一つの観光地に集中してしまうことだと考えます。

そこで私たちは、高校生の視点から山梨のさまざまな観光地をPRすることを提案します。具体的には、InstagramやXなどの公式SNSアカウントを開設し、高校生が山梨の魅力を発信します。高校生だからこそ気づける新しい魅力や楽しみ方をSNSで発信することで、これまであまり知られていなかった観光地にも興味を持ってもらえると考えます。その結果、観光客が一つの場所に集中するのを防ぎ、地域全体に人の流れを広げることで、オーバーツーリズムの解決につながると考えます。





13. 若者への起業支援について
富士学苑高校

私は、若者の起業への「体験不足」について提言します。

山梨県の大きな課題として、人口減少と若者の県外流出があります。これを解決するには、若者が自ら新しい仕事を創り出す「起業家精神」を育む教育が不可欠です。しかし現状、多くの高校生にとってビジネスは遠い世界であり、主体的に学ぶ機会は限られています。

そこで私は、「プロの知見を学び、学校と連携し即実践できる環境を作る」ビジネス教育を提案します。地元の経営者から社会の動きを学んだ上で、「総合的な探求の時間」を単なる思い出作りにせず、生徒が実際にビジネスを体験する場として活用するのです。リスクのない学校という安全な舞台で、失敗を恐れずに挑戦する。このサイクルを実現することで、若者が「山梨だからこそ挑戦できる」と思える、そして山梨だからこその起業体験ができる魅力的な山梨県をつくっていけると考えます。





14. やまなしパラスポーツセンターを活用した共生社会の実現について
ふじざくら支援学校

私は、運動が好きで、学校での「Fujizakura Fun Sports」というスポーツ活動に参加しています。その活動の中で、先日やまなしパラスポーツセンターを利用しました。とてもきれいで、空調設備もあるので、いつも活動しているときよりもパフォーマンスが上がったように感じました。この施設を活用して、共生社会を実現するために、すでに行われているかもしれませんが、月に何回かこの施設を使ったイベントなどを開催し、施設のことを知ってもらうことやイベントを通して様々な人との交流の場を作り、みんなが楽しくできるような環境を作っていってほしいと思います。



